

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
資 料 配 布

配布 日時	平成18年11月13日(月) 午後14時00分
----------	----------------------------

件 名	真名川の河川環境保全手法の検討のため、土砂還元を組み合わせた弾力的管理試験「フラッシュ放流」を実施します。
-----	---

概 要	<p>11月15日(水) 午前9時～午後4時まで放流(予定)</p> <p>真名川ダムから最大45 m<sup>3</sup>/s(トン)の放流に、土砂還元(ダム貯水池から土砂を採取しダム下流へ流す)を組み合わせ、フラッシュの効果を高めて、下流真名川の生物及び河川環境の保全を目指した試験を行います。</p> <p>真名川ではフラッシュ放流により、八千代橋付近で約100cm、真名川大橋付近で約50cmほど水かさが増えます。(気象条件等の理由により中止する場合があります)</p>
-----	--

取 扱	_____
-----	-------

配布場所	福井県県政記者クラブ 大野市情報広報課

お問い合わせ先
近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所 管理課長 阪口 繁(内線331) 電話 0779-(66)5300(代)



# 真名川ダムの弾力的管理試験「フラッシュ放流」について

## 1. 真名川ダムの弾力的管理試験「フラッシュ放流」について

真名川の河川環境の保全を目的とする弾力的管理試験の一つとして「フラッシュ放流」を実施します。フラッシュ放流とは弾力的管理による活用容量（洪水調節に備えた空き容量の一部に貯めた水）の水を数時間放流し、河床を洗浄することで、健全な河川環境を保全するための一つの方法です。（フラッシュ flush とは排砂、掃流のこと）

釣り人や川遊びの人たちの安全のために、下記内容の事前報道をお願いします。

真名川ダムでは、平成18年11月15日(水) 午前9時から、河川環境の保全を目的としてフラッシュ放流の試験を実施します。この試験にともない、ダムより下流の真名川では、八千代橋付近で約100cm、真名川大橋付近で約50 cmほど水かさが増えます。

放流時はスピーカー放送やサイレンによる警報及び巡視により、事前にお知らせしますので、すみやかに川から上がってください。ご協力をお願いします。

## 2. 真名川ダムの弾力的管理試験の流れ

- 平成12年度～14年度の試験では、ダムから真名川頭首工（五条方地先）までの約4kmの発電利用のための減水区間で「維持流量を増量することで、景観の向上及び藻類の生育に好適な環境を整えることによって、魚類の生息環境が改善される」という検討結果をまとめました。
- 平成15年度からは真名川頭首工より下流の河川環境の保全を目標として、真名川の河床の攪乱を目的とするフラッシュ放流の試験を実施しています。
- 平成15年度は30 m<sup>3</sup>/s 放流、平成16年度は50m<sup>3</sup>/s 放流に河川土砂還元（ダム貯水池内の堆砂を採取し、下流河川へ運搬・置土）を組み合わせることにより、フラッシュ放流の効果を増大させる可能性について試験を実施しました。これらの試験により河川礫の洗浄効果、土砂還元の藻類剥離に効果的であることを確認しました。
- 昨年は、藻類の生育が活発な8月にフラッシュ放流30m<sup>3</sup>/s を実施し、魚類の生息環境の改善効果を調査しました。同じく12月に真名川ダムから40 m<sup>3</sup>/s の放流に併せて、土砂投入（河川敷きにある土砂を流れやすいように流路に移動させる）を組み合わせることにより、フラッシュ放流の効果を増大させる可能性について試験を実施しました。
- 今年度は、これまでの試験に引き続き、土砂還元による河床の洗浄効果の確認とともに、還元土砂の効果的配置や、安全な放流のための水理現象の確認などを行い、フラッシュ放流の運用についてさらに検討を行います。

### 3. 土砂還元を組み合わせさせたフラッシュ放流の目的

真名川ダム下流では、ダムの調節により大きな洪水が起こらなくなったことから、砂礫の河原は陸地化し、川底の礫はあまり動かない状態です。また、ダム貯水池に土砂がせき止められ、川底には細かな土砂が少なくなっています。

本試験ではアユ等の生物の生息に適した川底に近づける手法を得ることを目標に、ダムからのフラッシュ放流に併せて、ダム貯水池上流部から土砂を採取し、ダム下流へ還元し河道に流すことで、自然再生効果の高いフラッシュ放流を実施します。

河床には10～50cmの小石、中石が多く、放流で流れる砂が少ない

アユのハミ跡



現在の真名川



### 4. 真名川ダムからの放流方法

午前9時、ダムから放流開始、急激な下流の水位上昇を避けるため徐々に増量し、午前11時40分頃から午後14時頃まで最大45 m<sup>3</sup>/s (トン) を放流します。その後、徐々に放流量を減量させ、午後16時過ぎに通常の放流量 (毎秒0.67 m<sup>3</sup>/s) に戻します。

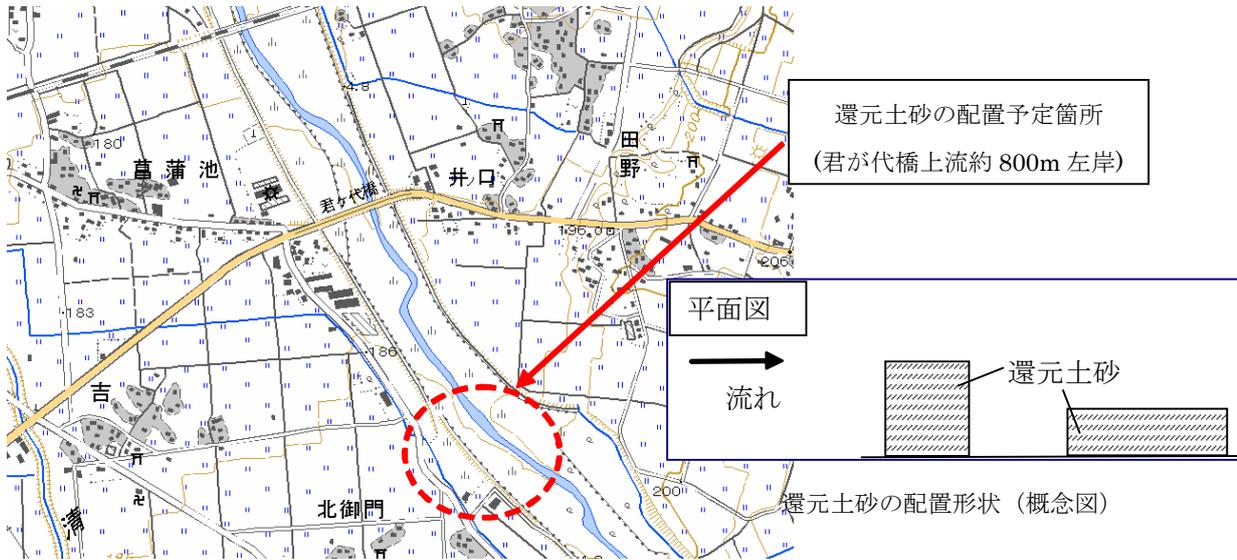
下流の各地点で水位が上昇始める時刻予定は、真名川ダム下流約6キロ地点の「八千代橋」で午後0時30分頃、同約10キロ地点の「富田大橋」で午前13時頃。フラッシュ放流により、水位が上昇している時間は最大で8時間程度続きます。

ダムからの放流のスケジュールは、別紙「真名川ダムからの放流による真名川的主要地点の流量変化予想」のとおりです。

放流を実施するにあたり、スピーカー放送、サイレンによる警報や河川の巡視に加え、河川利用者 (釣り人等) の安全確保を徹底するため、河川への出入り口には警備員の配置、河川への立入禁止の看板を設置します。

5. 還元土砂の配置場所

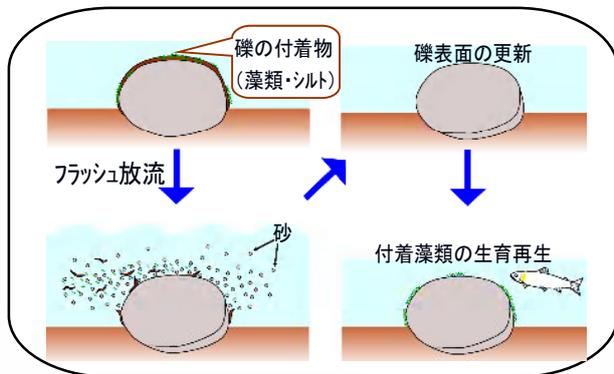
君が代橋上流約 800m 地点左岸に還元土砂を配置する。位置図、平面図（概念図）を下図に示す。



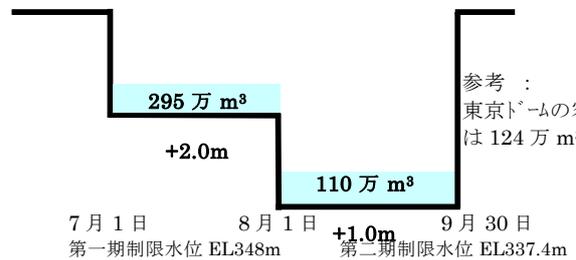
6. 土砂還元を組み合わせた弾力的管理試験「フラッシュ放流」のイメージ

○弾力的管理の活用容量

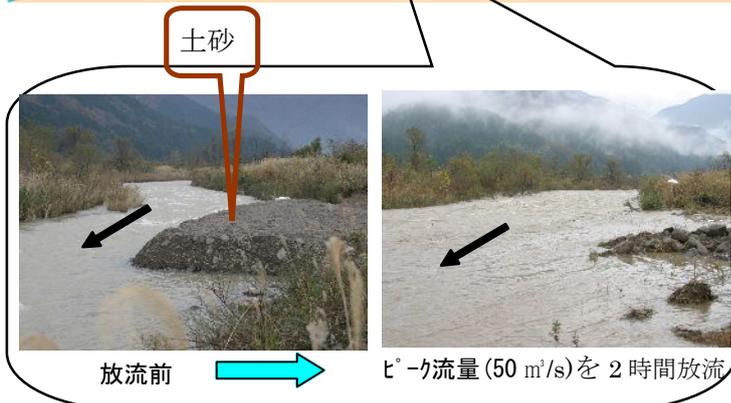
○シルトの堆積や付着藻類の更新



常時満水位 EL365m

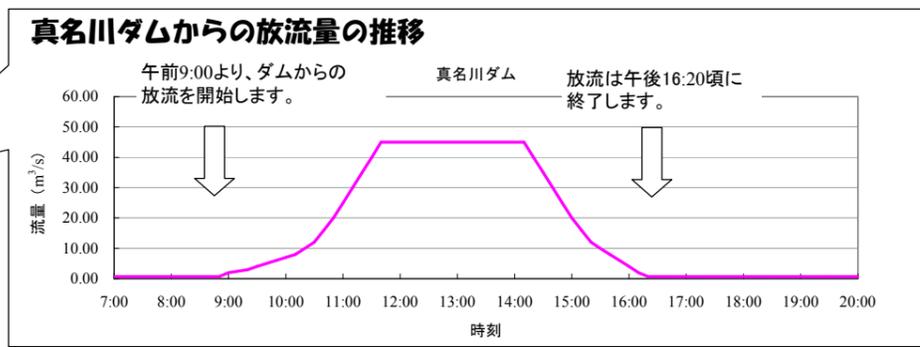
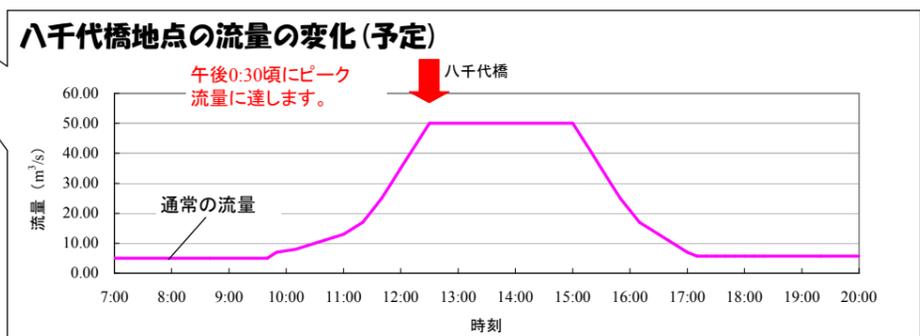
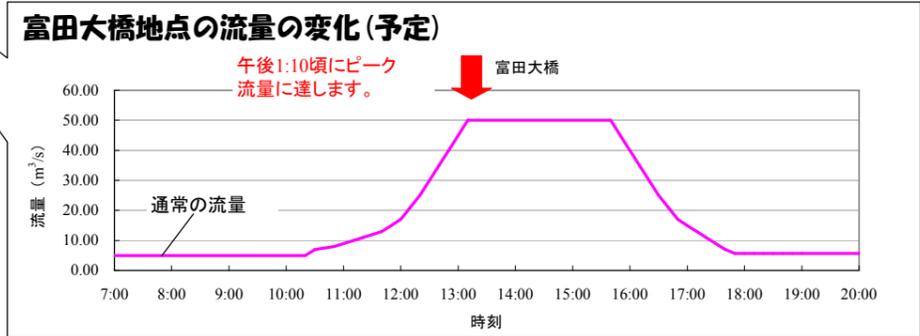
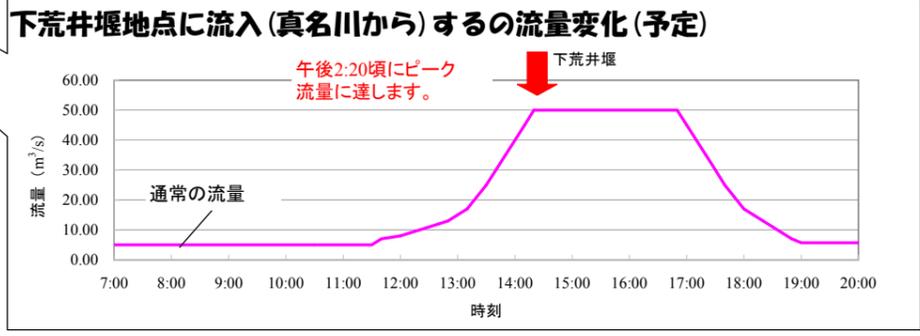
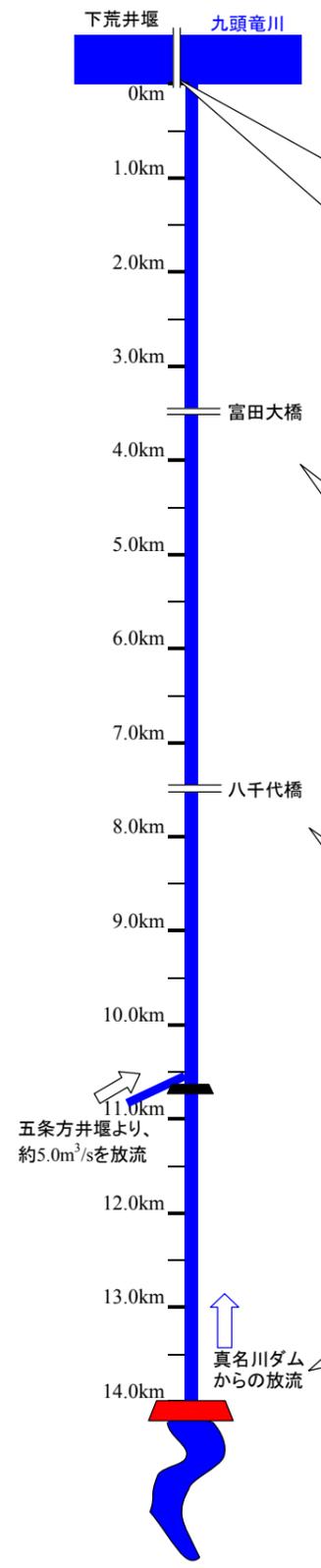


○フラッシュ放流



# 真名川ダムからのフラッシュ放流時の流量変化(予定)

真名川ダムでは、平成18年11月15日(水)に、河川環境の保全を目的としてフラッシュ放流を実施します。フラッシュ放流にともない、ダムの下流では急激に水かさが増え、水深は50cm~160cm程度増加します。放流時はサイレンによる警報及び巡視により、事前にお知らせいたしますので、すみやかに川から遠ざかるよう、ご協力お願いします。



※実際の流量、到達時間とは異なる場合があるので注意してください。

